

## ◆ 今週のコメント

- 先週の週報で速報しましたが、今年初めての腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例あり、2枚目の発生状況の概況グラフ「2 インフルエンザの推移」を「2 腸管出血性大腸菌感染症の推移」に変更しています。
- アメーバ赤痢(腸管アメーバ症)の報告が1例(男性, 40歳代)あり, 推定感染地域は国内, 推定感染経路は性的接触(異性間)です。本年の累積報告数は5例となっています。
- 後天性免疫不全症候群につきまして, 平成24年1月～3月の間は新たな感染者の報告がありませんでした。
- 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は8.95(367例)で, 先週に比べ減少しました。しかし, 依然として過去5年平均値を上回っています。京都市衛生環境研究所で受け付けた感染性胃腸炎の検体からのウイルスの検出状況をみると, 2月まではノロウイルスGⅡが最も多く検出されていましたが, 3月以降ロタウイルスの割合が増加し, 4月及び5月はロタウイルスが60%以上を占めています。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は2.46(101例)で, 先週(2.34)より増加するとともに, 過去5年平均値を大きく上回っています。年齢階級別では1歳以上で報告があり, 4歳が20例(19.8%)と最も多く, 次いで3歳11例(10.9%)となっており, 3歳から7歳までで56.4%を占めています。

## ◆ 今週のトピックス:<風しん>

風しんの報告が1例(40歳代, 女性)あり, 本年の累積報告数は10例となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- 二類: 結核 5例(肺結核 2例, その他結核 2例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 1例  
【1月以降の累積報告数 168例(肺結核 68例, その他結核 40例, 潜在性結核感染者 60例)うち喀痰塗抹陽性 37例】
- 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 1例(再掲)【1月以降の累積報告数 1例】
- 五類: アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 5例】
- 五類: 風しん 1例【1月以降の累積報告数 10例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ <sup>a</sup>	インフルエンザ	0.07	5
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	8.95	367
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.46	101
	③ 水痘	1.56	64
	④ 突発性発しん	0.37	15
	⑤ 咽頭結膜熱	0.15	6
	⑥ 流行性耳下腺炎	0.15	6
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

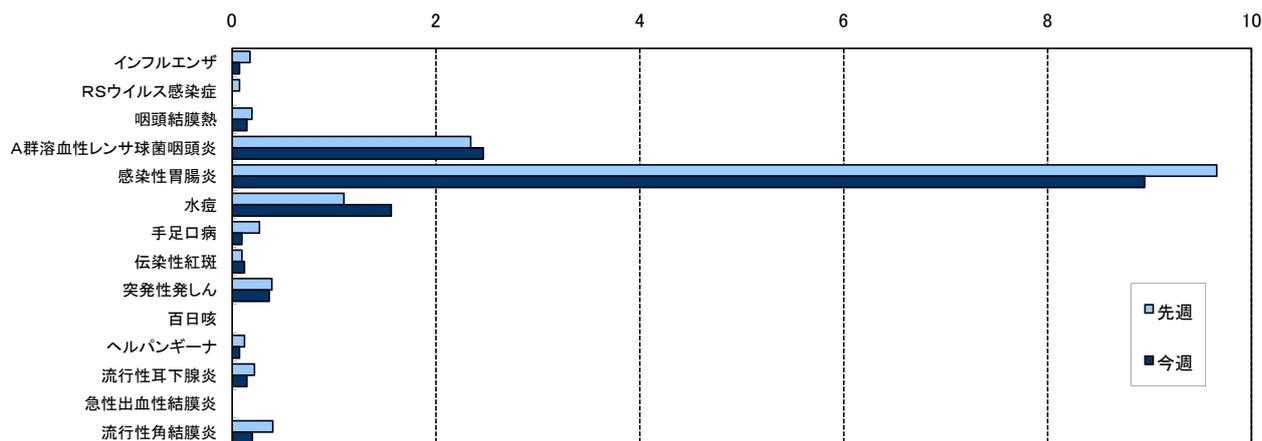
### 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<風しん>

(注) 京都市のデータは, 平成24年5月31日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

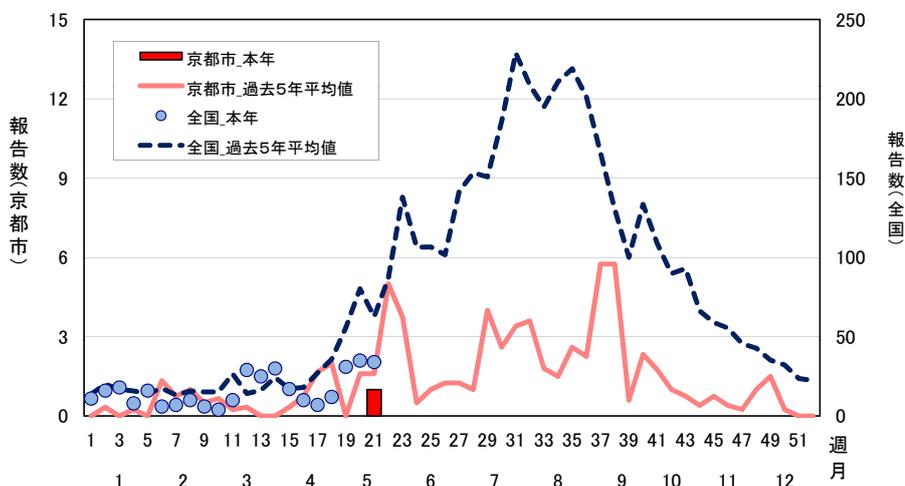
## 1 今週(第21週)と先週(第20週)の定点当たり報告数の比較



## 2 腸管出血性大腸菌感染症の推移

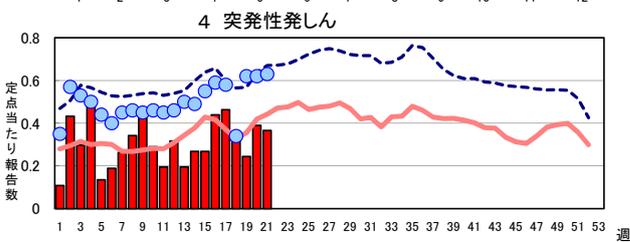
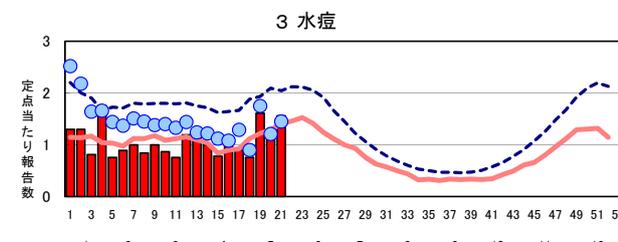
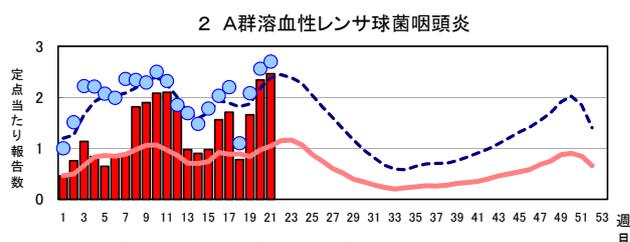
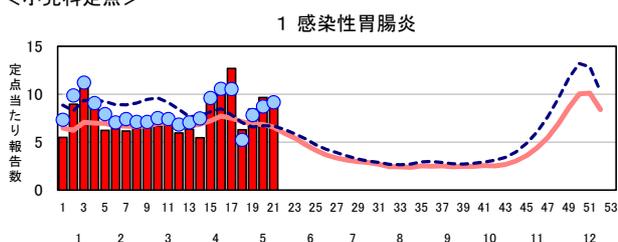
今週の報告数(累積報告数)

京都市	1例(1例)
京都府(京都市を除く)	1例
全国	34例(342例)

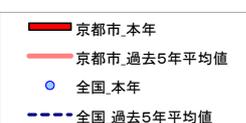
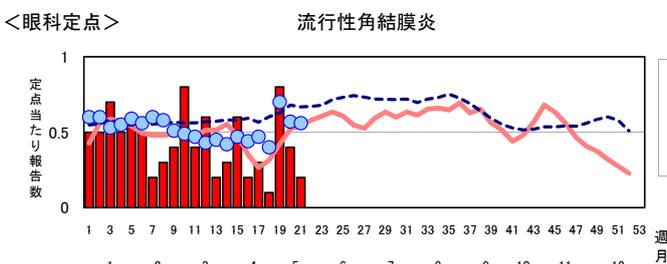


## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



## 第21週(5月21日～5月27日)トピックス: <風しん>

風しんの報告が1例(40歳代, 女性)あります。本年の累積報告数は10例となり, 定点把握疾患から全数把握疾患への変更後(平成20年1月1日～)の中でも非常に多くなっていますので, 今後の動向にご注意ください。性別は, 男性5例, 女性5例で, 年齢群別では40歳代が5例(男3例, 女2例)と最も多く, 10歳代, 20歳代, 30歳代, 50歳代, 60歳代が各1例となっています。ワクチン接種歴は, 不明7例, なし3例です。

全国の年次報告数は, 平成22年まで減少を続けていましたが, 平成23年に増加に転じ, 平成24年第21週までの累積報告数は, 昨年と同時期を上回っています。

都道府県別では兵庫県, 大阪府, 東京都, 京都府の順に多くなっています。

全国の性別年齢群別報告数の推移をみると, 平成23年以降20～40歳代の男性の報告数が急増しています。平成23年の抗体保有状況の調査(\*)では, 風しんHI抗体保有率が成人男性で低いことが示されており, 風しんを発症した成人男性から妊婦への感染による先天性風しん症候群の発生が懸念されています。

風しんの届出基準及び届出様式は, 下記をご覧ください。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000107310.html>

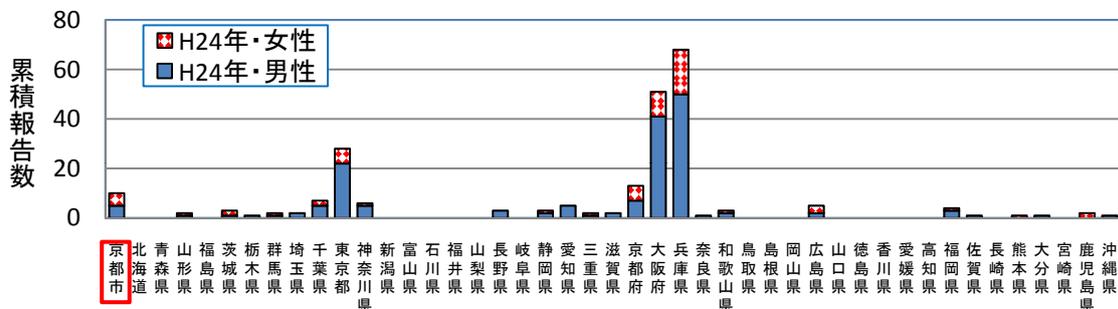
(\*)国立感染症センター 感染症情報センター 感染症流行予測調査

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/514-idsc/yosoku/1911-rubella-yosoku-serum2011.html>

京都市及び全国の年次報告数(平成24年5月31日現在)

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年 ( )内は第21週まで	平成24年 第21週まで
京都市	1	1	0	0	10
全国	303	147	87	374(170)	219

平成24年の都道府県別累積報告数(平成24年5月31日現在)



全国の性別年齢群別報告数の年次推移

